

月例経済報告の変遷

	平成 21 年	
	7月	8月
基 調 判 断	<p>景気は、厳しい状況にあるものの、<u>このところ持ち直しの動きがみられる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸出、生産は、<u>持ち直している。</u> ・企業収益は、極めて大幅に減少している。設備投資は、大幅に減少している。 ・雇用情勢は、急速に悪化しており、厳しい状況にある。 ・個人消費は、<u>このところ持ち直しの動きがみられる。</u> <p>先行きについては、当面、雇用情勢が悪化するなかで、厳しい状況が続くとみられるものの、<u>在庫調整の一巡や経済対策の効果に加え、対外経済環境の改善により、景気は持ち直しに向かうことが期待される。</u>一方、生産活動が極めて低い水準にあることなどから、雇用情勢の一層の悪化が懸念される。加えて、世界的な金融危機の影響や世界景気の下振れ懸念、<u>金融資本市場の変動の影響など、景気を下押しするリスクが存在することに留意する必要がある。</u></p>	<p>景気は、厳しい状況にあるものの、<u>このところ持ち直しの動きがみられる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸出、生産は、持ち直している。 ・企業収益は、極めて大幅に減少している。設備投資は、大幅に減少している。 ・雇用情勢は、急速に悪化しており、厳しい状況にある。 ・個人消費は、<u>このところ持ち直しの動きがみられる。</u> <p>先行きについては、当面、雇用情勢が悪化するなかで、厳しい状況が続くとみられるものの、<u>在庫調整の一巡や経済対策の効果に加え、対外経済環境の改善により、景気は持ち直しに向かうことが期待される。</u>一方、生産活動が極めて低い水準にあることなどから、雇用情勢の一層の悪化が懸念される。加えて、世界的な金融危機の影響や世界景気の下振れ懸念など、<u>景気を下押しするリスクが存在することに留意する必要がある。</u></p>
個 人 消 費	<u>このところ持ち直しの動きがみられる。</u>	このところ持ち直しの動きがみられる。
設 備 投 資	大幅に減少している。	大幅に減少している。
住 宅 建 設	大幅に減少している。	減少している。
公 共 投 資	堅調に推移している。	堅調に推移している。
輸 出 入	輸出は、 <u>持ち直している。</u> 輸入は、 <u>下げ止まりつつある。</u>	輸出は、持ち直している。輸入は、 <u>持ち直しの動きがみられる。</u>
国 際 収 支	貿易・サービス収支は、 <u>黒字へと転じた。</u>	貿易・サービス収支は、黒字へと転じた。
鉱 工 業 生産・出荷・在庫	生産は、持ち直している。	生産は、持ち直している。
企 業 の 向	企業収益は、極めて大幅に減少している。また、企業の業況判断は、 <u>厳しい状況が続いているが、大企業においては持ち直しの動きがみられる。</u>	企業収益は、極めて大幅に減少している。また、企業の業況判断は、 <u>厳しい状況が続いているが、大企業においては持ち直しの動きがみられる。</u>
倒 産 件 数	おおむね横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっている。
雇 用 情 勢	雇用情勢は、急速に悪化しており、厳しい状況にある。 完全失業率は上昇しており、5月は前月比0.2%ポイント上昇し5.2%となった。	雇用情勢は、急速に悪化しており、厳しい状況にある。 完全失業率は上昇しており、6月は前月比0.2%ポイント上昇し5.4%となった。
政 策 態 度	<p>政府は、当面、景気対策を最優先で進めるため、「経済危機対策」等を着実に実施する。また、<u>6月23日、「安心・活力・責任」の3つの目標を同時に達成するための道筋を示す「経済財政改革の基本方針2009～安心・活力・責任～」を閣議決定した。</u>今後、本基本方針に基づき経済財政運営を進める。</p> <p>日本銀行に対しては、我が国経済が、物価安定の下での持続的成長経路に復帰するため、引き続き政府との緊密な連携の下で、適切かつ機動的な金融政策運営を期待する。</p>	<p>政府は、当面、景気対策を最優先で進めるため、「経済危機対策」等を着実に実施する。また、「安心・活力・責任」の3つの目標を同時に達成するための道筋を示す「経済財政改革の基本方針2009～安心・活力・責任～」に基づき経済財政運営を進める。</p> <p>日本銀行に対しては、我が国経済が、物価安定の下での持続的成長経路に復帰するため、引き続き政府との緊密な連携の下で、適切かつ機動的な金融政策運営を期待する。</p>

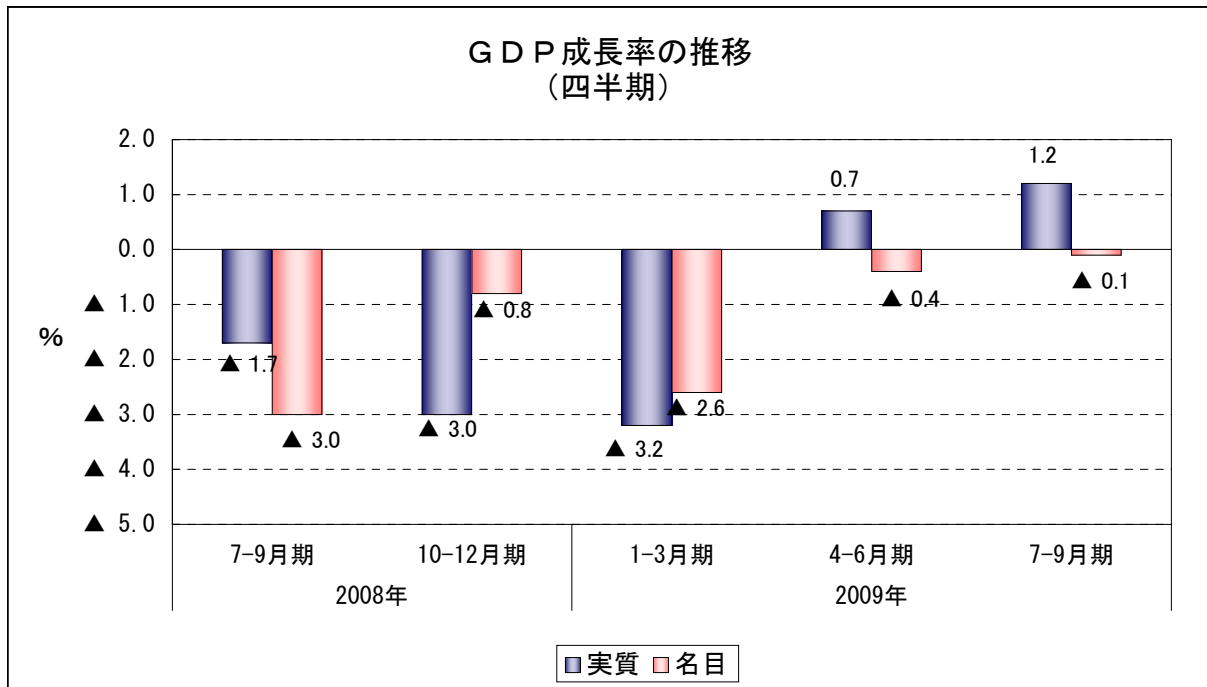
月例経済報告の変遷

	平成 21 年	
	9 月	10 月
基 調 判 断	<p>景気は、失業率が過去最高水準となるなど厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動きがみられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸出、生産は、持ち直している。 ・企業収益は、大幅な減少が続いているが、そのテンポは緩やかになっている。設備投資は、減少している。 ・雇用情勢は、一段と厳しさを増している。 ・個人消費は、このところ持ち直しの動きがみられる。 <p>先行きについては、当面、雇用情勢が悪化するなかで、厳しい状況が続くとみられるものの、在庫調整の一巡や経済対策の効果に加え、対外経済環境の改善により、景気は持ち直しに向かうことが期待される。一方、生産活動が極めて低い水準にあることなどから、雇用情勢の一層の悪化が懸念される。加えて、世界的な金融危機の影響や世界景気の下振れ懸念など、景気を下押しするリスクが存在することに留意する必要がある。</p>	<p>景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸出は、アジア向けを中心に、増加している。生産は、持ち直している。 ・企業収益は、大幅な減少が続いているが、そのテンポは緩やかになっている。設備投資は、減少している。 ・企業の業況判断は、依然として厳しい状況にあるものの、全体として持ち直しの動きが続いている。ただし、中小企業ではそのテンポは遅い。 ・雇用情勢は、悪化傾向が続いており、極めて厳しい状況にある。 ・個人消費は、持ち直しの動きが続いている。 <p>先行きについては、当面、雇用情勢が悪化傾向で推移するものの、海外経済の改善などを背景に、景気の持ち直し傾向が続くことが期待される。一方、雇用情勢の二層の悪化や海外景気の下振れ懸念、金融資本市場の変動の影響など、景気を下押しするリスクが存在することに留意する必要がある。</p>
個 人 消 費	このところ持ち直しの動きがみられる。	持ち直しの動きが続いている。
設 備 投 資	減少している。	減少している。
住 宅 建 設	緩やかに減少している。	緩やかに減少している。
公 共 投 資	堅調に推移している。	堅調に推移している。
輸 出 入	輸出は、持ち直している。輸入は、持ち直しの動きがみられる。	輸出は、アジア向けを中心に、増加している。輸入は、持ち直している。
国 際 収 支	貿易・サービス収支の黒字は、増加している。	貿易・サービス収支の黒字は、増加している。
鉱 工 業 生産・出荷・在庫	生産は、持ち直している。	生産は、持ち直している。
企 業 の 向	企業収益は、大幅な減少が続いているが、そのテンポは緩やかになっている。また、企業の業況判断は、厳しい状況が続いているが、大企業においては持ち直しの動きがみられる。	企業収益は、大幅な減少が続いているが、そのテンポは緩やかになっている。また、企業の業況判断は、依然として厳しい状況にあるものの、全体として持ち直しの動きが続いている。ただし、中小企業ではそのテンポは遅い。
倒 産 件 数	おおむね横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっている。
雇 用 情 勢	雇用情勢は、一段と厳しさを増している。完全失業率は、7月は前月比0.3%ポイント上昇し、5.7%と過去最高水準となった。	雇用情勢は、悪化傾向が続いており、極めて厳しい状況にある。完全失業率は、8月は前月比0.2%ポイント低下し5.5%となり、高水準で推移している。
政 策 態 度	<p>政府は、当面、景気対策を最優先に進めるため、「経済危機対策」等を着実に実施する。また、「安心・活力・責任」の3つの目標を同時に達成するための道筋を示す「経済財政改革の基本方針2009～安心・活力・責任～」に基づき経済財政運営を進める。</p> <p>日本銀行に対しては、我が国経済が、物価安定の下での持続的成長経路に復帰するため、引き続き政府との緊密な連携の下で、適切かつ機動的な金融政策運営を期待する。</p>	<p>政府は、家計の支援により、個人消費を拡大するとともに、新たな分野で産業と雇用を生み出し、内需を重視した経済成長を実現するよう政策運営を行う。また、現下の厳しい雇用情勢に細心の注意を払い、それを踏まえた対応策を検討する。</p> <p>日本銀行に対しては、我が国経済が、物価安定の下での持続的成長経路に復帰するため、引き続き政府との緊密な連携の下で、適切かつ機動的な金融政策運営を期待する。</p>

○平成21年7～9月期四半期別GDP速報（1次速報値）

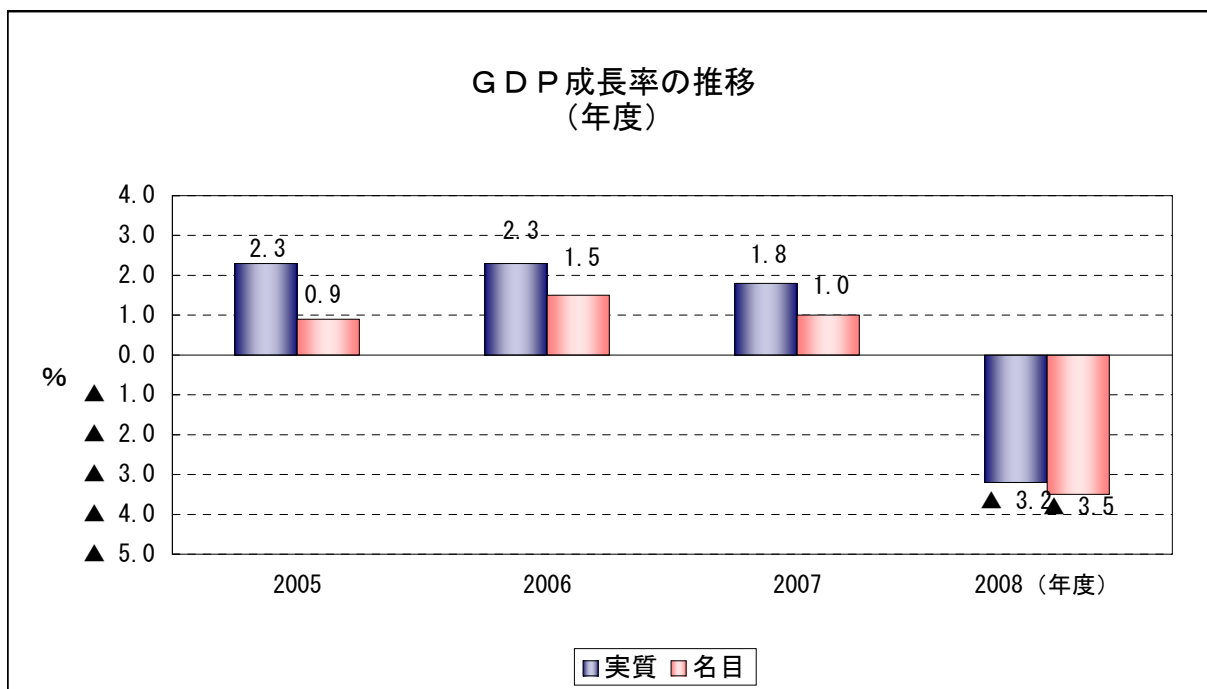
・GDP成長率（季節調整済前期比）

2009年7～9月期の実質GDP（国内総生産・2000暦年連鎖価格）の成長率は、1.2%（年率4.8%）となった。また、名目GDPの成長率は、▲0.1%（年率▲0.3%）となった。



・2008年度のGDP

2008年度の実質GDP成長率は、▲3.2%となった（名目GDP成長率は▲3.5%）。



○平成21年度経済動向試算(内閣府試算)

	平成20年度 (F. Y. 2008)	平成21年度 (F. Y. 2009)	
	(実績)	(暫定試算) (4月27日)	(今回試算)
	%程度	%程度	%程度
実質国内総生産	▲ 3.3	▲ 3.3	▲ 3.3
民間最終消費支出	▲ 0.5	0.3	▲ 0.1
民間住宅	▲ 3.1	▲ 0.5	▲ 5.1
民間企業設備	▲ 9.8	▲ 14.1	▲ 13.9
政府支出	▲ 0.5	6.4	5.8
政府最終消費支出	0.3	3.7	3.2
公的固定資本形成	▲ 4.4	18.6	19.1
内需寄与度	▲ 2.0	▲ 0.5	▲ 1.1
民需寄与度	▲ 1.9	▲ 2.0	▲ 2.4
公需寄与度	▲ 0.1	1.5	1.3
外需寄与度	▲ 1.2	▲ 2.8	▲ 2.2
名目国内総生産	▲ 3.6	▲ 3.0	▲ 3.1
完全失業率	4.1	5.2	5.4
鉱工業生産	▲ 12.7	▲ 23.4	▲ 13.0
国内企業物価	3.2	▲ 5.5	▲ 5.3
消費者物価(総合)	1.1	▲ 1.3	▲ 1.3
GDPデフレーター	▲ 0.3	0.3	0.2

(注1)我が国経済は民間活動がその主体をなすものであること、また、特に国際環境の変化には予見し難い要素が多いことにかんがみ、上表の諸計数はある程度幅を持って考えられるべきものである。

(注2)完全失業率以外は、対前年度比増減率。

(注3)試算に当たっては、既定の経済財政政策を基に以下の前提を置いた。なお、これらの前提は、作業のための想定であって、内閣府としての予測あるいは見通しを示すものではない。

	平成21年度	
	(暫定試算時)	(今回試算)
世界GDP(日本を除く)の実質成長率(%)	▲ 1.4	▲ 1.4
円相場(円/ドル)	97.8	96.4
原油輸入価格(ドル/バレル)	47.6	60.0

(備考)

1. 世界GDP(日本を除く)の実質成長率は、国際機関等の経済見通しを基に算出。
2. 21年6月11日以降、96.1円/ドル(同年5月11日～6月10日の1か月間の平均値)で一定と想定。
3. 21年8月以降、62.4ドル/バレル(※)で一定と想定。

※同年5月11日～6月10日の1か月間のドバイ・スポット価格の平均値に運賃、保険料を付加した値。

資料：内閣府「平成21年度経済動向試算(平成21年7月1日)」

○民間調査機関の経済見通し（平成21年10月現在）

	GDP成長率予測					
	平成20年度 (2008年度)		平成21年度 (2009年度)		平成22年度 (2010年度)	
	実質	名目	実質	名目	実質	名目
三菱総合研究所	▲ 3.2	▲ 3.5	▲ 3.3	▲ 3.8	1.2	0.2
みずほ総合研究所	▲ 3.2	▲ 3.5	▲ 3.3	▲ 3.5	1.4	▲ 0.2
農林中金総合研究所	▲ 3.2	▲ 3.5	▲ 3.4	▲ 4.0	0.9	0.2
野村証券金融経済研究所	▲ 3.2	▲ 3.5	▲ 2.7	▲ 3.2	0.5	▲ 0.6
ニッセイ基礎研究所	▲ 3.2	▲ 3.5	▲ 2.9	▲ 3.8	1.5	▲ 0.2
大和総研	▲ 3.2	▲ 3.5	▲ 3.2	▲ 3.4	1.2	0.7
富国生命保険	▲ 3.2	▲ 3.5	▲ 2.9	▲ 3.7	1.5	0.2
三菱東京UFJ銀行	▲ 3.2	▲ 3.5	▲ 2.9	▲ 3.6	1.4	0.7
日本総合研究所	▲ 3.2	▲ 3.5	▲ 3.5	▲ 4.3	▲ 0.1	▲ 2.0
第一生命経済研究所	▲ 3.2	▲ 3.5	▲ 2.9	▲ 3.4	1.4	0.7
新光総合研究所	▲ 3.2	▲ 3.5	▲ 2.7	▲ 3.5	1.5	0.2
三菱UFJ証券景気循環研究所	▲ 3.2	▲ 3.5	▲ 3.1	▲ 3.5	1.8	2.1
日本経済研究センター	▲ 3.2	▲ 3.5	▲ 3.0	▲ 3.2	1.4	0.2
13社平均	▲ 3.2	▲ 3.5	▲ 3.1	▲ 3.6	1.2	0.2

注) 前年度比%、▲はマイナス。

○日銀の経済見通し（平成21年10月30日公表「経済・物価情勢の展望」）

	2009年度	2010年度	2011年度
実質GDP 大勢見通し	-3.3~-3.2 < ▲ 3.2 >	0.8~1.3 < 1.2 >	1.6~2.4 < 2.1 >
〃 全員見通し	-3.4~-3.0	0.7~1.5	1.4~2.5

注1) 「大勢見通し」は各政策委員が最も蓋然性の高いと考える見通しの数値について、最大値と最小値を1個ずつ除いて、幅で示したものであり、その幅は、予測誤差などを踏まえた見通しの上限・下限を意味しない。

2) 対前年度比、%。なお、<>内は政策委員見通しの中央値。

○内閣府（経済財政諮問会議）の中長期経済見通し

「1-1-1. 2010年世界経済順調回復シナリオ」

<%程度>、兆円程度

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2015 年度	2018 年度
潜在成長率	< 1.3 >	< 1.3 >	< 1.3 >	< 1.2 >	< 1.0 >	< 1.1 >
実質成長率	< ▲ 0.8 >	< 0.0 >	< 1.5 >	< 1.4 >	< 1.5 >	< 1.2 >
名目成長率	< ▲ 1.3 >	< 0.1 >	< 1.8 >	< 2.2 >	< 3.0 >	< 2.9 >
名目GDP	509.4	510.2	519.4	530.8	586.7	639.9
物価上昇率						
（消費者物価）	< 1.3 >	< ▲ 0.4 >	< 0.2 >	< 1.4 >	< 2.5 >	< 2.3 >
（国内企業物価）	< 4.1 >	< ▲ 2.1 >	< ▲ 1.6 >	< ▲ 0.1 >	< 1.9 >	< 1.5 >
（GDPデフレーター）	< ▲ 0.5 >	< 0.1 >	< 0.3 >	< 0.7 >	< 1.5 >	< 1.7 >
完全失業率	< 4.2 >	< 4.7 >	< 4.6 >	< 4.5 >	< 4.0 >	< 3.3 >

注1) 経済財政諮問(平成21年1月16日)における「経済財政の中長期方針と10年展望」の審議のための参考として内閣府が作成した試算値である。

注2) 消費者物価指数は総合(全国)である。

1 経済成長率

(季調済前期比、%)

	平成19年度 (2007年度)	平成20年度 (2008年度)	平成20年 (2008年) 7-9月	10-12月	平成21年 (2009年) 1-3月	4-6月	7-9月
実質GDP	1.8	▲ 3.2	▲ 1.7	▲ 3.0	▲ 3.2	0.7	1.2
名目GDP	1.0	▲ 3.5	▲ 3.0	▲ 0.8	▲ 2.6	▲ 0.4	▲ 0.1

(注) 実質GDPは2000暦年連鎖価格。

資料出所：内閣府「四半期別GDP速報」

2 個人消費

個人消費は、持ち直しの動きが続いている。

(前年同期(月)比、()内は季調済前期(月)比)

	平成19年度 (2007年度)	平成20年度 (2008年度)	平成20年 (2008年) 10-12月	平成21年 (2009年) 1-3月	4-6月	平成21年 (2009年) 6月	7月	8月
消費総合指数 (実質)	0.7	▲ 1.6	(▲ 1.6) ▲ 1.7	(▲ 1.9) ▲ 4.8	(1.0) ▲ 2.8	(0.2) ▲ 2.7	(0.3) ▲ 2.6	(0.2) ▲ 1.5
家計調査								
実質消費支出	0.8	▲ 2.9	(▲ 0.7) ▲ 3.2	(0.2) ▲ 3.2	(0.3) ▲ 0.2	(▲ 0.3) 0.2	(▲ 1.3) ▲ 2.0	(1.9) 2.6
実質消費支出 (除く自動車、住居、仕送り金等)	2.9	▲ 0.5	(▲ 0.2) ▲ 0.6	(0.3) ▲ 1.5	(0.2) 1.1	(▲ 0.3) 0.4	(▲ 0.2) ▲ 0.5	(2.1) 3.6
家計消費指数(実質)	-	-	▲ 3.3	▲ 4.6	▲ 0.4	0.3	0.2	
平均消費性向(季調値)	73.6	73.3	71.4	74.1	75.2	76.4	74.9	73.5
全国百貨店販売額 (既存店、名目)	▲ 0.8	▲ 6.7	▲ 7.8	▲ 11.1	▲ 10.8	▲ 9.1	▲ 11.8	p ▲ 8.9
スーパー販売額 (既存店、名目)	▲ 1.1	▲ 2.5	▲ 2.4	▲ 4.7	▲ 4.1	▲ 5.4	▲ 6.1	p ▲ 5.7
コンビニエンスストア販売額 (既存店、名目)	▲ 0.9	5.4	6.9	4.2	1.0	▲ 1.7	▲ 7.5	p ▲ 5.6
新車新規登録・届出台数 (乗用車・軽を含む)	▲ 3.7	▲ 11.0	(▲ 7.0) ▲ 14.2	(▲ 12.4) ▲ 23.4	(4.9) ▲ 17.2	(5.7) ▲ 12.2	(11.6) ▲ 2.8	(1.9) 3.4
旅行者取扱金額(名目)								
(国内)	1.3	▲ 4.6	▲ 3.4	▲ 8.6	▲ 15.1	▲ 14.9	▲ 11.6	▲ 11.1
(国外)	▲ 2.4	▲ 11.4	▲ 15.2	▲ 19.5	▲ 33.3	▲ 45.4	▲ 30.9	▲ 24.4

(注) pは速報値

資料出所：内閣府「月例経済報告」

3 民間設備投資
設備投資は、減少している。

(前年同期比、()内は季調済前期比、%)

法人企業統計季报	平成19年 (2007年)	平成20年 (2008年)	平成20年 上期	平成20年 下期	平成20年 7-9月	平成21年 1-3月	4-6月
全産業	▲ 4.7	▲ 16.9	▲ 10.7	▲ 22.2	(▲ 4.2)	(▲ 7.4)	(▲ 4.5)
製造業	3.8	▲ 9.6	▲ 0.5	▲ 17.7	(▲ 4.5)	(▲ 10.3)	(▲ 13.4)
非製造業	▲ 9.2	▲ 21.3	▲ 17.1	▲ 24.9	(▲ 3.9)	(▲ 5.4)	(▲ 1.4)
大中堅企業	▲ 2.4	▲ 14.6	▲ 12.3	▲ 16.7	(▲ 5.0)	(▲ 6.8)	(▲ 4.2)
中小企業	▲ 10.8	▲ 23.3	▲ 6.0	▲ 37.2	(▲ 1.9)	(▲ 9.8)	(▲ 5.8)

(備考) 1. 年度及び半期の伸び率、大中堅企業の季調済前期比は内閣府試算値。
2. ソフトウェア投資を除く。
3. 「金融機関を子会社とする純粋持株会社」を除く。

(前年同期(月)比、()内は季調済前期(月)比、%)

	平成19年度 (2007年度)	平成20年度 (2008年度)	平成20年 7-9月	平成20年 10-12月	平成21年 1-3月	4-6月	5月	7月	8月
資本財出荷指数 (除く輸送機械)	1.2	▲ 17.6	(▲ 5.7)	(▲ 7.3)	(▲ 19.2)	(▲ 17.0)	(▲ 2.6)	(▲ 1.8)	(▲ 1.9)
機械受注(船舶・電力 除く民需)	▲ 3.0	▲ 14.1	(▲ 8.9)	(▲ 15.1)	(▲ 9.9)	(▲ 4.9)	(▲ 3.0)	(▲ 9.3)	(▲ 0.5)
建築着工工事費予定額 (民間非居住用)	▲ 8.3	11.7	(12.3)	(▲ 15.5)	(11.2)	(▲ 39.7)	(▲ 21.5)	(10.6)	(▲ 20.5)
			69.8	9.9	5.7	▲ 36.5	▲ 50.8	▲ 46.2	▲ 36.3

(注1) 建築着工工事予定額(民間非居住用)は、建築着工統計調査報告(国土交通省)を元に内閣府で試算したものである。

主要機関の設備投資アンケート調査結果

機関名	全規模		日本銀行		日本政策投資銀行		日本経済新聞社		(前年度比伸び率、%)	
	20年度	21年度	20年度	21年度	20年度	21年度	20年度	21年度	20年度	21年度
調査対象企業	大企業		中小企業		資本金10億円以上		上場、資本金1億円以上の有力企業		内閣府・財務省	
全産業	(▲ 7.7)	(▲ 19.0)	▲ 6.6	▲ 10.8	▲ 9.8	▲ 33.3	▲ 7.1	▲ 9.2	▲ 5.6	▲ 15.9
(除く電力)	(▲ 7.7)	(▲ 19.0)	(▲ 8.0)	(▲ 12.7)	(▲ 9.7)	(▲ 33.5)	(▲ 9.3)	(▲ 12.2)	(▲ 7.5)	(▲ 18.0)
製造業	▲ 7.4	▲ 28.8	▲ 7.2	▲ 25.6	▲ 7.7	▲ 39.7	▲ 9.7	▲ 20.7	▲ 7.9	▲ 24.3
非製造業	▲ 5.8	▲ 11.0	▲ 6.2	▲ 2.2	▲ 10.8	▲ 30.1	▲ 5.6	▲ 0.1	▲ 2.4	▲ 4.5
(除く電力)	(▲ 7.8)	(▲ 13.0)	(▲ 8.5)	(▲ 4.0)	(▲ 10.7)	(▲ 30.3)	(▲ 9.0)	(▲ 3.5)	(▲ 6.9)	(▲ 7.3)
電力	16.1	6.8	11.6	9.8	▲ 31.8	14.6	10.6	12.0	18.5	5.8
調査時点	21年9月		21年9月		21年6月		21年4月		21年8月	
発表時期	21年10月		21年10月		21年8月		21年6月		21年9月	
回答社数	10,235	2,378	5,127		2,366		1,475		11,543	

(注) 1. 日銀はソフトウェア投資を除く。日銀の電力は電気・ガス。回答社数は対象会社数。

2. 日経新聞の調査は連結ベースで、海外で行う設備投資も含む。

3. 内閣府・財務省の電力は、電気・ガス・水道。

資料出所：内閣府「月例経済報告」

4 雇用情勢

雇用情勢は、悪化傾向が続いており、極めて厳しい状況にある。

	(前年比は原数値、()内は季調値)						
	平成19年度 (2007年度)	平成20年度 (2008年度)	平成21年 1-3月	4-6月	平成21年 6月	7月	8月
完全失業率 (%)	3.8	4.1	(4.4)	(5.4)	(5.4)	(5.7)	(5.5)
完全失業者数 総数 (万人)	255	275	(297)	(355)	(356)	(376)	(362)
うち非自発的な離職による者	81	97	(119)	(161)	(165)	(174)	(166)
うち自発的な離職による者 (万人)	97	99	(96)	(106)	(100)	(113)	(109)
雇用者数 (前期比、%)	5,523	5,520	(5,500)	(5,434)	(5,413)	(5,437)	(5,459)
(前年比、%)	0.7	▲ 0.1	(▲ 0.6)	(▲ 1.2)	(▲ 0.2)	(0.4)	(0.4)
新規求人数 (前期比、%)	▲ 9.0	▲ 18.3	(▲ 13.3)	(▲ 8.6)	(4.2)	(0.0)	(▲ 1.1)
(前年比、%)	▲ 7.7	▲ 19.1	(▲ 11.9)	(▲ 15.9)	(▲ 0.5)	(▲ 0.5)	(0.2)
有効求人数 (前年比、%)	1.02	0.77	(0.59)	(0.45)	(0.43)	(0.42)	(0.42)
求人広告掲載件数 (前年比、%)	7.0	▲ 24.3	▲ 43.9	▲ 46.2	▲ 47.3	▲ 41.2	▲ 37.0
所定外労働時間 (前期比、%)	1.3	▲ 7.0	(▲ 13.7)	(0.5)	(0.0)	(2.1)	p (0.0)
(残業時間等)	0.1	▲ 18.7	▲ 19.7	▲ 18.2	▲ 17.6	▲ 16.4	p ▲ 15.2
製造業 (前期比、%)	0.7	▲ 1.1	(▲ 0.8)	(▲ 1.7)	(▲ 5.2)	(1.0)	p (3.0)
(前年比、%)	▲ 0.7	▲ 1.1	▲ 3.0	▲ 4.7	▲ 7.0	▲ 5.6	p ▲ 3.1
現金給与総額 (1人当たり・名目) (前期比、%)	▲ 1.1	▲ 2.3	(0.1)	(▲ 1.2)	(▲ 5.2)	(1.1)	p (3.3)
(前年比、%)	▲ 0.3	▲ 0.9	▲ 2.8	▲ 3.7	▲ 5.2	▲ 3.0	p ▲ 0.5
定期給与 (名目) (前期比、%)	▲ 0.3	▲ 0.9	(▲ 0.9)	(▲ 0.6)	(▲ 0.1)	(0.1)	p (0.3)
(前年比、%)	▲ 0.3	▲ 0.9	▲ 2.3	▲ 2.4	▲ 2.1	▲ 2.5	p ▲ 1.9

(備考) 1. 現金給与総額、実質賃金および所定外労働時間は事業所規模5人以上。

2. 求人広告掲載件数は(社)全国求人情報誌協会資料より。2007年3月までは64社、2007年4月～2008年3月は66社、2008年4月以降は64社による前年比。

3. 定期給与とは、きまって支給する給与のことであり、所定内給与と所定外給与の合計。

15歳以上の労働力人口における就業者数

	平成19年 (2007年)	平成20年 (2008年)	平成21年 1-3月	平成21年 4-6月	平成21年 6月	7月	8月
就業者数 (原数値)	6,412	6,385	6,267	6,321	6,300	6,270	6,296
前年(同期、同月)差	30	▲ 27	▲ 49	▲ 131	▲ 151	▲ 136	▲ 109

(単位：万人)

資料出所：総務省「労働力調査」

5 金融

株価（日経平均株価）は、10,300円台から10,500円台まで上昇した後、9,600円台まで下落し、その後10,000円台まで上昇している。

対米ドルレートは、92円台から88円台まで円高方向で推移した後、89円台で推移している。

(%、ポイント、円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年 1-3月	4-6月	7-9月	平成21年 7月	8月	9月
コールレート (無担保翌日物)	0.641	0.088	0.088	0.110	0.103	0.105	0.110	0.103
ユーロ円TIBOR (3か月物)	0.841	0.649	0.649	0.564	0.536	0.549	0.542	0.536
国債流通利回り	1.275	1.340	1.340	1.350	1.295	1.415	1.305	1.295
東証株価指数 (TOPIX)	1,212	773	773	929	909	950	965	909
日経平均株価 (円)	12,525	8,109	8,109	9,958	10,133	10,356	10,492	10,133
円相場 (対米ドル)	100.10	98.10	98.10	95.95	89.77	95.33	92.70	89.77

(注) 1. 年度、四半期、月次とも各期末の数値。

2. 国債流通利回りは、新発10年国債流通利回り。

3. 円相場 (対米ドル) は、インターバンク直物中心相場。

(参考)

金融市場調節方針の変更

無担保コールレート (オーバーナイト物) を、0.1%前後で推移するよう促す。(2008年12月19日)

(前年同期 (月) 比、()内は季調済前期比年率、%、億円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年 1-3月	4-6月	7-9月	平成21年 7月	8月	9月
マネーストック								
(M2)	1.9	2.1	(3.7)	(3.7)	(2.9)	(2.9)	(r 3.7)	(3.0)
(広義流動性)	2.9	0.1	▲ 0.5	▲ 0.1	0.2	0.0	2.8	3.0
マネタリベース	▲ 1.9	1.6	(17.2)	(8.1)	(▲ 5.5)	(▲ 6.9)	(3.6)	(▲ 11.9)
貸出動向	0.7	2.7	3.8	7.5	5.6	6.1	6.1	4.5
普通社債発行額 (億円)	122,014	118,676	32,612	35,265	33,289	15,921	6,894	10,474

(注1) マネー指標のrは、数値改訂を示す。

(注2) 貸出動向は銀行(都市銀行等、地方銀行、第二地方銀行)合計の月中平均残高。

下段は貸出債権流動化・償却要因等を調整した後の計数。

(注3) 普通社債発行額は国内発行分であり、外貨建て国内普通社債及び資産担保型社債を含む。

(注4) マネタリベースの季調済前期比年率は季調済計数についての定例季調替えを実施(2009/2/3)。

資料出所：内閣府「月例経済報告」